

第3号の刊行に寄せて

金沢城は、近世を通じ、北陸の政治、経済、文化の中心として、また都市金沢の核として、幾多の変遷をたどりながらも、時代を超えて生き続けてきた、本県のかけがえのない文化遺産であります。

専門家の方々のみならず、金沢城に深く興味をお持ちの幅広い県民の皆様から、最新の研究成果を知りたいとの要望が多数寄せられており、本丸附段やいもり堀・県庁跡地の埋蔵文化財確認調査での現地説明会では、大勢の方々が参加され、金沢城に対する関心の高さを改めて感じているところであります。

本書は、研究成果を専門的にとりまとめたもので、建築学が専門の田中徳英先生から二の丸御殿の部屋の用途・構成に関する論文を賜り、掲載することができました。

そのほか、研究調査室が実施した戸室石切丁場確認調査の概要報告、二の丸御殿絵図の分類・編年に関する調査の成果および東の丸附段に現存する「鶴丸倉庫」に関する調査報告も合わせて掲載しております。

これら最新の研究成果に触れていたしたことにより、金沢城について様々な視点から考えていただければ幸いです。

最後になりましたが、御多忙中にもかかわらず、玉稿をお寄せくださいました田中先生に感謝申し上げますとともに、本書が金沢城の歴史的・文化的意義の解明と県民の皆様と一体となった金沢城の保存・活用に役立ち、さらには近世城郭史研究に資することとなれば誠に幸いります。

平成17年3月

石川県教育委員会

教育長 山 岸 勇